新潟県教育界における「学閥」問題（第十三回）

にいがた県民教育研究所「学閥」研究会

第七章　徹底分析・一九八九年春の校長・教頭の転任・昇任にみる「派閥」の公教育支配

今回は今春の校長・教頭の異動にみられる「派閥」の公教育支配の実態を明らかにし、あわせてその裏にひそんでいる「閥内競争」をつうじた「派閥」の教員統制の論理と手口についてのべる。

「ときわ校長」のあとには「ときわ校長」が
ー乗っ取られた公教育ー

まず第1表をみていただきたい。この表は今春の校長・教頭の異動にあたって、前任の校長・教頭の「派閥」と新しくその学校に来た校長・教頭の所属「派閥」との関係を県内の全小・中学校について示したものである。今春、校長が交代した学校は小学校で二二一校（転任一一二名、昇任一〇九名）、中学校で九八校（転任四九名、昇任四九名）であった。また教頭が交代した学校は小学校で二〇七校（転任九四名、昇任一一三名）、中学校で八九校（転任三九名、昇任五〇名）であった。ただし新設校が四校（新潟市下山中、栃尾刈谷田中および秋葉中、上越市雄志中）あるのでこの校長・教頭ポスト計八を差し引くと実際に交代が行われた小・中学校校長・教頭ポストの総計は六〇七である。

さて、新設校も含めた六一五のポストはすべて「派閥」というインフォーマル組織に所属する教員によって占められた。しかも第1表Cにみられるように交代のあった六〇

七ポストのうち五六四ポスト（九三％）までが前任者と同一「派閥」に所属する校長・教頭によって占められた。各学校の校長や教頭という公的な役職（税金から管理職手当も支払われる）が「派閥」という私的な集団によって私物化され各「派閥」の「縄張り」ができ上がっているのである。「教育委員会」は一体何をしているのであろうか。そして「派閥」の「裏工作」で「管理職」となった教員が、校内でしばしば大きな顔をしていばり返っている。参考までに第2表に前任者と同一「派閥」の校長がやって来た学校名の一覧を養護学校も含めて示した。

第1表「○○閥」の校長・教頭のあとにどの閥の校長・教頭が来たか（1989年、小・中学校計）

A、校長の「派閥」

	ときわ会へ	公孫会へ	新陽会へ	検友会へ	青葛会へ	女教員会へ	無派閥へ
ときわ会より	135	0	0	0	0	5	0
公孫会より	0	105	1	3	0	3	0
新陽会より	0	2	28	1	0	0	0
検友会より	0	2	0	14	0	0	0
青葛会より	4	3	1	1	0	0	0
女教員会より	4	2	0	1	0	0	0
無派閥より	0	0	0	0	0	0	0
新設校ポスト	＋1	＋3	0	0	0	0	0
廃校ポスト	－7	－9	－2	－2	－1	－1	0
増　減	－3	－4	－3	＋2	－11	±0	0

B、教頭の「派閥」

	ときわ会へ	公孫会へ	新陽会へ	検友会へ	青葛会へ	女教員会へ	無派閥へ
ときわ会より	119	0	1	1	0	0	0
公孫会より	0	120	0	0	0	3	0
新陽会より	0	0	17	0	0	0	0
検友会より	1	0	1	26	0	0	0
青葛会より	0	1	0	0	0	0	0
女教員会より	0	2	0	0	0	0	0
無派閥より	0	0	0	0	0	0	0
新設校ポスト	＋1	＋2	＋1	0	0	0	0
廃校ポスト	－8	－9	－1	－4	0	0	0
増　減	－8	－7	＋2	－5	－1	＋1	0

C、校長＋教頭の総計

	ときわ会へ	公孫会へ	新陽会へ	検友会へ	青葛会へ	女教員会へ	無派閥へ
ときわ会より	254	0	1	1	0	5	0
公孫会より	0	225	1	3	0	6	0
新陽会より	0	2	45	1	0	0	0
検友会より	1	2	1	40	0	0	0
青葛会より	4	4	1	1	0	0	0
女教員会より	4	4	0	1	0	0	0
無派閥より	0	0	0	0	0	0	0
新設校ポスト	＋2	＋5	＋1	0	0	0	0
廃校ポスト	－15	－18	－3	－6	－1	－1	0
増　減	－11	－11	－1	－3	－11	＋1	0

さて今回、所属「派閥」の交代のあった四三ポストの「中味」をみると「ときわ会」と「公孫会」の「交代」は一つもなく、大部分が「青葛会」と「女教員会」に関係したものである。「青葛会」は旧青年師範学校卒業生による「学閥」であり、来春にはすべての「青葛会員」が現場を去り、消滅する。今春、「青葛会」の校長九名、教頭一名、および長岡ろう学校長が退職したが、その「青葛会」ポスト（勿論、公立学校の公的なポストである）の「後釜」を各「派閥」は利権にたかるハイエナのようにしてこれを「山分け」し

第２表　前任者と同一「派閥」の校長が来た学校一覧（1989年）（「派閥」の縄ばり）

A、「ときわ校長」のあとに「ときわ校長」が来た学校

新潟市	豊照小、笹口小、笠木小、五十嵐小、東中野山小、東青山小、湊小、万代小、内野中、山潟中、小新中、新潟市立養護
長岡市	阪之上小、川崎小、千手小、宮内小、六日市小、十日町小、下川西小、新町小、上川西小、南中
上越市	和田小、高田盲
三条市	須頃小、裏館小、第一中、本成寺中、大崎中、月ヶ岡養護
柏崎市	なし
新発田市	二葉小、五十公野小、住吉小、竹俣小、東中
新津市	市野瀬小、新関小、第五中
小千谷市	小千谷小、塩殿小、上片貝小、片貝小
加茂市	七谷小、七谷中、葵中
十日町市	飛渡第一小、六箇小、鐙島小、馬場小
見附市	名木野小、見附小
村上市	野潟小
燕市	燕東小、燕西小、小池中、燕北中
栃尾市	塩川小、半蔵金小
糸魚川市・新井市	なし
五泉市	五泉小、五泉東小、川東小、橋田小、五泉中、橋田中
両津市	片野尾小、両尾小、加茂小、東中、南中
白根市	大鷲小、庄瀬小、根岸小、臼井中、茨曽根小
豊栄市	笹山小、早通中
佐渡郡	相川小、行谷小、沢根小、八幡小、真野小、西三川小、大滝小、金泉中、松ヶ崎中、佐渡養護
岩船郡	女川小、平林小、神納小、猿沢小、土沢小、金丸小、小俣小、中継小、平林中、女川中、猿沢中、塩野町中、雷中
北蒲原郡	十二天小、黒川小、京ヶ瀬小、安野小、荒橋小、藤塚小、乙小、村松浜小、豊浦中、築地中、乙中
中蒲原郡	横越小、亀田小、十全小、亀田西中
東蒲原郡	西川小、日出谷小、津川中、鹿瀬中
西蒲原郡	吉田南小、鐙郷小、中之口東小、巻北小、分水北小、弥彦中
南蒲原郡	田上小、笹岡小、大浦小、大面小、早水小、栄中、中之島中
三島郡	寺泊小
古志郡	虫亀小、東竹沢小
北魚沼郡	広神中

（第２表つづき）

南魚沼郡	大巻中
中魚沼郡	千手小、三箇小
刈羽郡	内郷小
東頸城郡	なし
中頸城郡	原通小
西頸城郡	なし

B、「公孫会校長」のあとに「公孫会校長」が来た学校

新潟市	南中野山小、木山小、赤塚小、山の下中、新潟盲、県立新潟養護
長岡市	表町小、富曽亀小、浦瀬小、深沢小、神田小、栖吉小、東北中
上越市	中の俣小、春日小、直江津南小、高士小、春日新田小、国府小、高田西小、城西中、直江津中、高田養護、上越養護
三条市	月岡小、大島中
柏崎市	新道小、半田小、北鯖石小、柏崎小、枇杷島小、大洲小、第一中、第三中、城北中、柏崎養護
新発田市	なし
新津市	結小
小千谷市	東小千谷小、千田小、岩沢小、南荷頃小、小栗山小、大崩小、真人小
加茂市	なし
十日町市	飛渡第二小、東下組小、下条中
見附市	見附西中、まごころ養護
村上市	瀬波小
燕市	なし
栃尾市	下塩小
糸魚川市	大和川小、糸魚川東小、大野小、今井小、下早川中
新井市	姫川原小、狼橋小、吉木小、上馬場小
五泉市・両津市・白根市	なし
豊栄市	岡方第二小
佐渡郡	二見小、川茂小
岩船郡	八幡小、桑川小
北蒲原郡	新金塚小
中蒲原郡・東蒲原郡	なし
西蒲原郡	升潟小、分水中、中之口中
南蒲原郡	下田中
三島郡	岩塚小、夏戸小、本山小、越路中
古志郡	池谷小

（第２表つづき）

北魚沼郡	井口小、宇賀地小、原小、福山小、堀之内中、小出養護
南魚沼郡	上関小、第一上田小、北辰小、浦佐小、三俣小、大崎小
中魚沼郡	倉俣小
刈羽郡	高柳小、刈羽小、石地小、上小国小
東頸城郡	末広小、中俣倉小、大島小、川上小、茹平小、松之山小、松代中、浦田中、安塚中
中頸城郡	源小、大鹿小、黒川小、柿崎小、黒岩小、町立妙高中
西頸城郡	不動小、能生小、中能生小、歌外波小、市振小

C、「新陽会校長」のあとに「新陽会校長」が来た学校

新潟市	石山中、大江山中、曽野木中、寄居中
長岡市	宮内中、東中、栖吉中、背葉台中
新津市	第一中、金津中
北蒲原郡	水原中、中条中、京ヶ瀬中、加治川中
西蒲原郡	黒埼中、月潟中
西頸城郡	名立中、能生南中
三条市大島小、柏崎市第二中、新発田市猿橋中、加茂市加茂中、十日町中条中、両津市岩首中、豊栄市岡方中、佐渡郡相川中、岩船郡粟島浦中、東蒲原郡三川中	

D、「検友会校長」のあとに「検友会校長」が来た学校

新発田市	車野小、赤谷小
西蒲原郡	潟東南小、間瀬小
白根市新飯田小、南蒲原郡信条小、栃尾市比礼小、古志郡竹沢小、北魚沼郡上条小、南魚沼郡後山小、北蒲原郡高浜小、両津市岩首小、中蒲原郡小須戸中、柏崎市中通中	

た。すなわちその十一ポストの「配分」は「ときわ会」5、「公孫会」4、「新陽会」および「検友会」各1である。ちなみにこの5・4・1・1という比率は「良識ある研修団体」である「派閥」がさまざまな利権を「山分け」する時の基礎的な数字である。「ときわ会」は西川町西川中、和島村北辰中、中里村清津峡小、山北町山熊田小および長岡ろう学校長のポストを、「公孫会」は新潟市五十嵐中、柏崎市北条中、十日町市真田小の校長と糸魚川市西海中の教頭ポストを、「新陽会」は五泉市五泉北中の校長のポ

ストを、「検友会」は加茂市加茂西小学校の校長ポストを「獲得」した。

「女教員会」ポストは「ときわ会」と「公孫会」の「貸席」
ー「女教員会」ポストのカラクリー

さて今回、二人の女性校長（新潟市竹尾小・新井市長沢小）の退職にともなって二人の女性教頭が校長に昇任し、さらにそれにともなって二人の女性教員が教頭に昇任した。女性管理職の空きポストに応じてのみ女性が昇任するというのも管理職昇任における性差別を如実に示しているが、「女教員会」を通じてそのような現実が是認されている。今回の校長・教頭の異動で「女教員会」がらみのものは二十ポストであった。なお第1表Cで「女教員会」の総増減はプラス1となっているが、この表に算定されていない新井市にしき養護学校の教頭を今春「女教員会」が「公孫会」に「返した」ので養護学校まで含めると女性管理職の数は昨年と同じである。

さて「女教員会」は他の「派閥」とは異なり、独自の「指定席」を持たず、そのポストを第3表に示すように「ときわ会」と「公孫会」から「借り」ている。現在「女教員会」の校長ポストは十三席、教頭ポストは九席であるが、校長ポストの七席は「ときわ会」、六席は「公孫会」からの、

第3表　「ときわ会」と「公孫会」が「女教員会」に貸し与えている管理職ポスト

校長（13席）		教頭（9席）	
「ときわ会」7席	「公孫会」6席	「ときわ会」4席	「公孫会」5席
1989年		1989年	
1，新潟市入舟小（と）	1，上越市古城小（公）	1，五泉市丸田小	1，柏崎市別俣小
2，三条市上林小	2，長岡市桂小（公）	2，両津市両尾小	2，西蒲・越前小
3，村上市吉浦小	3，見附市新潟小	3，北蒲・荒橋小	3，北魚・原小（公）
4，北蒲・赤坂小	4，南蒲・荒沢小（公）	4，北魚・木沢小	4，中魚・倉俣小（公）
5，東蒲・下条小	5，南魚・三用小		5，刈羽・下小国小（公）
6，中蒲・川内小	6，東頸・原小（公）		
7，刈羽・門出小			
1988年		1988年	
1，新潟市竹尾小	1，新井市長沢小	1，五泉市丸田小	1，柏崎市鵜川中
2，新津市満日小	2，長岡市桂小（公）	2，両津市両尾小	2，新井市にしき養護（公）
3，十日町市名ヶ山小	3，栃尾市中野俣小	3，北蒲・荒橋小	3，北魚・原小（公）
4，中蒲・川内小	4，南蒲・荒沢小（公）	4，北魚・木沢小	4，刈羽・下小国小（公）
5，西蒲・茨曽根小（と）	5，南魚・三用小		5，東頸・中川小
6，刈羽・門出小	6，中頸・竹直小（公）		
7，佐渡・金泉小			

※（公）は「公孫会」に、（と）は「ときわ会」にも加入していることを示す。なお「ときわ会」は女性の加入を認めていないが師範学校が男女共学となった1950〜1951年卒に例外的に3名だけ「女性会員」がおり、これはそのうちの1名である。

また教頭ポストの四席は「ときわ会」、五席は「公孫会」からの「借用物」である。したがって女性管理職の数を増やすも減らすもまたどこの学校のポストを貸し与えるかも「ときわ会」と「公孫会」の胸先三寸にかかっている。この点で「女教員会」は他の「派閥」から自立した「派閥」ではなく、完全に「ときわ会」と「公孫会」の「従属閥」である。なお、「公孫会」の「貸席」を使用する場合は「管理職」のメドがつくころになると「公孫会」にも加入させられ、「ショバ代」を支払わされる例も多い。「女教員会」幹部が「ときわ会」や「公孫会」の幹部に対して卑屈な態度をとる一方で、校内の女性教員の生活・労働条件に対しては時に男性管理職よりも冷淡な態度を示すのは男女差別の是認とこのような管理職ポストのカラクリに基づくその従属性に起因している。なお「公孫会」は「ときわ会」と異なり、多数の女性教員を加入させているが、それによって女性公孫会員に男用の「公孫会」の管理職ポストを提供するということは以上の事実が示すようにないのである。もとより女性教員にとって（男性教員にとっても同じことであるが）人間らしい生活を犠牲にしてまでも「閥内競争」に参加し、たび重なる「飲み会」には極力出席し、盆暮れの「つけ届け」をはじめ「派閥」幹部や「管理職」に物心両面から忠誠を誓うなどということはとんでもないばかばかしいことである。それでもなお加入させられているのは「異動の時に困るぞ。」といった利益誘導＝脅しによって、「公孫会」がインフォーマル組織を通じて女性教師の統制と資金の収集、さらに「閥務」に対する労力の提供を意図しているためにほかならない。

学校の統合・新設の裏で「派閥」のポスト争い
―新潟市下山中・五十嵐中校長は「公孫会」の手に―

今回の異動六〇七ポストのうち、前任者と同一「派閥」の校長・教頭により占められたポスト（五六四ポスト）、「青菖会」の退職によるもの（十ポスト）、「女教員会」の異動にともなうもの（二十ポスト）を差引くと残りは十三ポスト（二％）である。その大部分は学校の統廃合や新設にからんでいる。次にこれらの内容をみてみよう。

まず小学校長については上越地方においては「公孫会」が中規模校である柿崎町上下浜小（児童数二〇〇名＝一九八八年）を「検友会」から奪取するために「三対二のトレード」を行った。すなわち「検友会」に大島村菖蒲小（へき地二級地・同二四名）、牧村沖見小（へき地一級地・同二七名）、糸井川市上早川小（へき地一級地・同四五名）の校長ポストを「渡し」、上下浜小のほか安塚町中川小（へき地一級地・同三三名）の校長のポストを付けさせた。ちなみに上越地方の過疎地では今春牧村宇津小・高尾小、吉川町竹直小・東田

中小・泉谷小・勝穂小・川谷小、それに上越市中ノ俣中が廃校となった。（ほかに佐渡・相川町外海府小・小田小、真野町静山小、東蒲・鹿瀬町豊実小、岩船・山北町山熊田中も閉校した）。

学校の統廃合や新設は「派閥」の縄張りがほとんど確定している現在、新たなポストをめぐる「派閥」間の熾烈な利権争いの丁場となる。今春、新潟市内において一〇〇メートルほどしか離れていない新潟小学校（児童数五一八名）と大畑小学校（同一四〇名）とが統合した。これは長年の「懸案」でありなかなか実現しなかった理由は統合後の「校名問題」であるなどといわれてきたが、それは世間を欺く方便であり（「校名問題」などというのはその地域の教育をどうするかという統合問題の本質とはおよそかけはなれた形式的なことがらである）、実は、真の原因は「学閥」問題にあったことは知る人ぞ知るである。すなわち新潟小学校は「ときわ会」の拠点校であって、現在「ときわ会長」の在任校であり、片や大畑小学校の校長ポストは古くから新潟市内における「公孫会」の由緒ある「指定席」であった（教頭は「ときわ会」の指定席）。「公孫会」は統合にあたって大畑小学校長ポストの「見返り」を新潟市内で獲得することを画策した。とくに「公孫会」指定席が現在山の下中学校ただ一校しかない中学校ポストに狙いを定めた。しかし「ときわ会」と「新陽会」の縄張りの下で昨年までは「食い込む」チャンスがなかったが、今年は下山中学校の新設と五十嵐中学校の「青葛会」校長の退職にあたった。表面的には「校名問題」でひきのばしてきた大畑小学校の統合も「公孫会」がこの二つの校長ポストをまんまと手に入れることによって実現した。なお下山中学校の教頭ポストは「新陽会」が取った。

栃尾市では市内の七中学校を統合・再編して北部に刈谷田中、南部に秋葉中が新設された。七校のこれまでの「指定席」は校長が「ときわ会」5、「公孫会」1（下塩谷中）、「新陽会」1（栃尾中）、教頭が「ときわ会」3、「公孫会」2、「新陽会」1、「検友会」1であった。新設の刈谷田中は校長・教頭ともに「ときわ会」、秋葉中はともに「公孫会」が取り、新しい学校の発足と同時に学校が「派閥」によって系列化された。

上越市では津有中と高士中が統合されて雄志中が新設された。高士中校長は「新陽会」の「指定席」であったが新設の雄志中は校長・教頭とも「公孫会」が取った。「公孫会」は代りに中頸清里村清里中の校長ポストを「新陽会」に与えた。これで上越市内の小学校三十校、中学校十校の「管理職」ポスト八十のうち七十七までが「公孫会」の「指定席」となった。残りの三つのポストは和田小校長（「ときわ会」）、城東中校長（「新陽会」）、それに古城小校長（「女教員会」）であるが古城小はもともと「公孫会」の「貸席」である。かってこれ以外に東本町小校長は「ときわ会」、直江津中は「新陽会」、八千浦中は「青葛会」の「指定席」

であったが「公孫会」はこれらを一つずつ潰し、上越市内全域およびその周辺の主要地域において公孫会独裁体制を確立し、あわせて新潟市内から岩船郡に至るまでその「政治力」を拡大することを基本戦略としている。上下浜小校長の「検友会」からのトレードもその一環である。既に新井市では全小・中学校の校長・教頭ポストが「公孫会」の「指定席」になっている。

以上のほか今春、所属「派閥」の交替があったのは塩沢町栃窪小および岩船・関川村安角小の校長が「新陽会」から「公孫会」となり、あわせて安角小の教頭は「検友会」から「新陽会」となった。また刈羽村刈羽中校長は「新陽会」から「検友会」となった。新津三中の教頭は「ときわ会」から「新陽会」となった。また新潟市小瀬小の教頭は「ときわ会」から「検友会」となり、豊栄南小教頭はその逆となった。養護学校関係ではこれまで県立新潟養護学校は校長「公孫会」、教頭「ときわ会」、吉田養護学校は校長「ときわ会」、教頭「公孫会」であったが、今回、教頭の「派閥」の入れかえが行われ、新潟養護は校長・教頭ともに「公孫会」、吉田養護は「ときわ会」となって養護学校まで「派閥」による系列化が強化された。

だれが校長や教頭の昇任を決めているのか？
ー公的昇任人事も「派閥」が制圧ー

さて今年の教頭の新任は小学校一一三名、中学校五〇名で計一六三名であった。その「派閥」別内訳を新任校長とともに第4表に示した。

これらの昇任ポストはその「派閥」の空きポストの数によって決定される。すなわち公立学校の管理職昇任については公的な手続きが定められているはずであるのに、それが「閥内競争」になっているのは何とも不可思議な話である。だれが、どこで、どのようにしてその「選考」を行っているのであろうか。新潟県教育委員会はその選考基準や手続、さらにその選考にあたって「派閥」による介入がないのかどうか、県民の前に明らかにする責任がある。

さて、第4表からは校長の新任数は「ときわ会」の方が「公孫会」より十名以上うわまわっており、校長昇任にともなう教頭ポストの

第4表　新任校長・教頭の「派閥」別内訳（1989年）

派閥	新任校長			新任教頭		
	小学校	中学校	計	小学校	中学校	計
ときわ会	51(10)	19(4)	70(14)	46	17	63
公孫会	46(4)	11(6)	57(10)	49	18	67
新陽会	1	17(5)	18(5)	2	15	17
検友会	9	2(1)	11(1)	14	0	14
青葛会	0	0	0	0	0	0
女教員会	2	0	2	2	0	2
無派閥	0	0	0	0	0	0
計	109(14)	49(16)	158(30)	113	50	163

（　）内は校長相当職からの新任を内数で示す。

あきによって、一見、教頭昇任数も「ときわ会」の方が多くなるように思われる。ところが実際には新任教頭は「公孫会」の方が多い。これは教頭のまま退職した数が「公孫会」の方がかなり多いことを意味している。実際今春、教頭のまま退職した教員は「ときわ会」は十九名であったが、「公孫会」は三十名に達した（ほかの「検友会」八名、「青菖会」一名、「新陽会」はゼロ）。「公孫会」においては（他の「派閥」も皆そうであるが）管理職昇任を最大のエサにして「閥内競争」をあおり、教員の視野と生きがいをせばめ、「派閥」への忠誠を競わせている。そして順次ふるい分けを行い、年齢に応じて教頭にさせない、校長にさせないと「会員」は順次、干されていく。そして、最後まで「閥内競争」に勝ち残れるのは、極小数の「派閥」幹部要員だけであって、このような幹部に「派閥の権力」が極端に集中するような構造がつくり出されている。「派閥の権力」はつまるところ利権支配と「脅し」（差別）によって維持されている。

教頭への道は一に「派閥」への忠誠、二に主事・附属学校教員・組合役員（「派閥」御用組合派）経験
―今春の昇任者にみる「閥内競争」の論理―

次に今春（一九八九年）の教頭昇任の具体的な事例を通じて、教頭昇任のうらにひそむ「閥内競争」の論理を検討してみよう。まず今春、最も教頭昇任者の多かった「公孫会」について検討する。「公孫会教頭」の年令、出身校、経歴等の一覧を年令順に第5表に示した。

さて「公孫会」新任教頭の平均年令は四七・五才であって例年になく「若く」、とくに、四五才以下が二五名を占めた。これは平均年令で「ときわ会」（平均年齢四九・二才）より約二才若く、四五才以下の新任教頭の数で十二名多い。これは「閥内競争」による「選別」がより若い年令層まで熾烈になってきていることを示している。また新潟大学教育学部出身者の占める割合は六七名中四一名（六一％）であるが四五才以下では二五名中十二名で半数に足りない。このことは「公孫会」においては「新潟大学教育学部卒」という学歴はしだいに問題でなくなり、今や「派閥」への忠誠と貢献にもとづく「能力主義的」な選別に切り変えられつつあることを示している。

さて昇任者の経歴をみると

一、指導主事・社教主事などの「行政」経験
二、附属学校、海外日本人学校などの教員経験
三、教職員組合の支部四役以上の役員経験
四、文部省中央研修、海外短期派遣研修（視察旅行）、上教大での現職研修などの「研修」経験
五、「公孫会」青年部役員や「年度会」などの「閥務」

第5表　「公孫会」新任教頭の年令等一覧（1989年）
（前任校欄はその校長派閥を示す。Aときわ会、B公孫会、C新陽会）

	赴任校	年令	出身大学・卒業年	前任校	県関役職歴	研修歴	主事・附属学校歴	組合役員歴
1	中魚・堅ヶ小	41	福島大教育46	B				中魚支部書記長
2	金沢・松代小	42	信州大教育44	B				
3	北魚・東通ノ谷小	42	国学院大44	B	青年部長部長・年度会幹事	海外研修		
4	新高・本山小	42	新潟短大42	B	青年部若松支部長		弥彦公民館社教主事	
5	上越・中の保小	43	東洋大45	B			上越市AV主事	
6	柏崎・横根小	43	大谷大43	B		社教主事講習	塩生町社教主事	
7	新潟・西沢小	43	新潟大教育44	B	年度会（よぶ会）幹事	海外研修		二市中類書記次長
8	新潟・山の下小	43	〃　43	B		海外研修		
9	〃　・桜ヶ丘小	43	〃　43	B		海外研修		
10	中魚・戸倉小	43	信州大教育39	B		社教主事講習	安塚町社教主事	
11	中類・上中山小	44	新潟大教育42	B				
12	高田・中郷小	44	新潟短大40	B	年度会（こしの会）中頸支部長			
13	中魚・大倉沢小	44	新潟短大43・日大通47	B				北魚支部書記長
14	高・大関小	44	新潟短大40	B		中堅研修		
15	西蒲・吉田北小	44	新潟大教育42	B	公孫会青年部長		附属高田小	
16	中類・板倉中	44	〃　42	B	年度会（こしの会）幹事長		白根日本人学校	
17	中魚・中堅中	44	〃　43				柏崎市指導主事	
18	東区・中川小	45	新潟短大42	B		上教大院		
19	中類・関沢小	45	都留文科大41	B				
20	北魚・堀之内小	45	新潟大教育41	B		海外研修		
21	南魚・湯川小	45	国学院大42	B		海外研修		佐渡支部書記次長
22	新井・新井中	45	新潟大教育41	B			附属高田中	
23	糸井川・西海中	45	〃　41	B		文部省中央研修		
24	白根・第一中	45	〃　41	B	公孫会評議員	文部省生主講習		
25	佐渡・畑野中	45	〃　41	B			教科指導主事	
26	上越・東本町小	46	〃　40		公孫会評議員・年度会会長	上教大院	附属高田中	
27	中類・亀田西小	46	〃　41	B		新潟大内地留学		
28	巻栄・磯井小	46		B		上教大院		
29	長岡・新組小	47	玉川大通信42	B				北魚支部書記長
30	南魚・五日町小	47	新潟大教育39	B				
31	〃　・塩沢小	47	〃　39	B				県書記長・長岡書記長
32	若松・山北南中	47	〃　40	B			県教科研究員	
33	北魚・川口小	48	玉川大43	B				
34	柏尾・東谷小	48	新潟大教育39	B				県厚生委員長・南魚書記長
35	見附・新潟小	48	埼玉大教育38	B			理セン専任所員	
36	東区・横川原中	48	新潟大教育38	B				二市中類書記次長
37	南魚・塩沢中	48	〃				附属長岡中	南魚支部書記長
38	巻新・二田小	49	専修短大35・玉川大41	B				
39	中魚・田沢小	49	新潟大教育37	B			理セン専任所員	
40	北魚・南之谷中	49	〃　37	B				
41	三島・原山中	49	〃　40				長岡市指導主事	
42	新潟・南中野山小	50	〃　37	B	年度会会計監査			
43	若松・夏川保小	50	〃　37	B				
44	西蒲・分水中	50	〃　36	B				中魚支部書記長
45	新潟・山潟小	51	新潟短大34	B				県大会代議員
46	若松・神納東小	51	新潟大教育37	B		文部省中央研修・海外研修	附属高田中	
47	西蒲・巻東中	51	〃　35	B				
48	糸魚川・下早川小	52	新潟大高田32卒	B				
49	東蒲・張明小	52	新潟大教育36	C				
50	〃　・保倉小	52	新潟大高田32卒	B	年度会（五阡会）幹事長			
51	中類・原通小	52	〃	B	年度会東類支部長	社教主事講習		
52	〃　・山部小	52	〃・玉川大36	B				
53	柏崎・比角小	52	新潟大高田32卒	B		東洋大内地留学	サウジアラビア日本人学校	
54	北魚・入広瀬小	52	柏崎短大32・日大34	B				
55	東蒲・松之山中	52	新潟大教育37	B			理セン専任所員	
56	〃　・東栄小	53	柏崎短大33	B	年度会役員会計			
57	柏崎・鵜川中	53	明治学院大34	B		CIE米国留学		
58	中蒲・亀田西中	53	新潟大高田31卒	A				
59	柏崎・高浜小	54	柏崎短大31	B				
60	東類・南水小	54	新潟大高田31卒	B	年度会役員幹事			
61	長岡・桂小	55	〃30卒	B			県教科研究員	柏崎支部副委員長
62	南魚・第二上田小	55	玉川大通信32	B				
63	中魚・岳田小	55	新潟大長岡30卒	B				
64	巻新・巻南小	55	東京学芸大30	B				
65	新井・新井南中	55	新潟大高田29卒	B	年度会中部地区幹事			二市中類副委員長
66	東類・大島中	55	新潟大教育31	C				
67	新井・水原小	56	新潟大高田28卒	B				

経験

などが重視されていることがわかる。「閥務」経験についていえば今回、「公孫会」青年部の部長、副部長、岩船支部長経験者が含まれ、いずれも四二～四四才で昇任した。さらに「派閥」の「年度会」役員経験者も多数にのぼる。また「公孫会」会長・副会長などの在任校であり、日常的に「閥務」の中心となっている上越市城西中、大町小、大手町小、長岡市表町小からは合計六名の昇任者があり、いずれも四五才以下である。ちなみに第5表に前任校の校長「派閥」を示したがそのほとんどは「公孫校長」の学校に在職していたことがわかる（附属学校や行政は空欄にしてある）。例外は上越市城東中および高士中＝ともに「新陽会」C、および五泉市川東中＝「ときわ会」A、からの異動である。

次に組合役員歴をみると元新潟県教組副委員長（一九八八年度）（四八才）や県教組元書記長（一九八三～八四年度）（四七才）など県教組の「最高幹部」をはじめ、支部四役以上経験者も多数含まれている。元中魚沼支部書記長は四一才で教頭となった。彼らは「派閥」をつうじて管理職と意を通じ、組合運動が新潟県教育界の真の民主化と「派閥」や管理職批判にむかわないようにすることをその最大使命とし、それと「引きかえ」に「派閥」から管理職ポストを与えられるのである。世にいう「御用組合」の見本のようなものである。去る三月十四日（一九八九年）糸魚川市の浦本小学校で、校舎落成にあたって全児童に教室内に設けられた祭壇に玉ぐしをささげ、拝礼させるという事件があって世間を驚かせた。この校長（「公孫会」）も元新潟県教組委員長（一九八一～八三年）として「派閥」に貢献した。

「ときわ教頭」への最短コースは新大卒・附属学校教員
―「学歴・肩書」偏重・形式主義の「ときわ会」―

次に「ときわ会」の場合についてみてみよう。「ときわ会」新任教頭の一覧を第6表に示した。参考までに「新陽会」、「検友会」、「女教員会」についても第7表に示した。

「ときわ会」の場合も「派閥」の「指定席」を利用して教頭昇任の選考が行われていることは表に示すように明確な事実であるが、その「選考結果」には「公孫会」の場合とくらべていくつかの相違点が認められる。

その一つは平均年令が高く、四五才以下の昇任者が少ないことは前に述べた。「学歴」の点では六三名中五四名（八六％）が新潟大学教育学部の出身者であり、「公孫会」の六一％という数字に比べて著しく高い、この点は「ときわ会」はより「学歴偏重」であり、同学部出身者が「閥中閥」を作っているともいえる。さらに四十才台での昇任者二九

第６表　「ときわ会」新任教頭の年令等一覧（1989年）
（前任校はその校長の派閥を示す。Ａときわ会、Ｂ公孫会、Ｃ新陽会、Ｆ女教員会）

	赴任校	年令	出身大学・卒業年	前任校	主事歴等	附属学校歴	組合役員歴
1	新潟・太郎代小	41	駒沢大46	A	西蒲・燕ＡＶ主事		
2	豊栄・豊栄南小	42	新潟大教育44		上教大院	附属長岡小	
3	中蒲・村松小	42	〃　44			附属新潟小	
4	岩船・金屋小	43	〃　44		県教育庁企画広報係長		
5	十日町・野中小	43	〃　43		県立教育センター指導主事		
6	新発田・第一中	43	信州大教育43		県立教育センター指導主事		
7	岩船・土沢小	44	新潟大教育42	A	県小学校教育研究会事務局員		
8	西津・内海府中	44	〃　42		新潟市指導主事		
9	岩船・関小	45	東洋大経41	A	水原町社教主事		
10	両津・野浦小	45	新潟大教育41		新潟市教育センター指導主事	附属新潟小	
11	佐渡・大滝小	45	信州大教育42	A		附属新潟中	
12	西蒲・岩室中	45	新潟大教育43			附属新潟中	
13	小千谷・上片貝小	46	〃　40	A			三南支部委員長・書記次長
14	見附・上北谷小	46	〃　41	A			長岡支部委員長
15	中魚・上野小	46	〃　40	A		附属長岡小	
16	岩船・瀬波小	46	東北大教育42	A			
17	南蒲・飯田小	46	新潟大教育40	A		附属長岡小	
18	十日町・水沢小	47	〃　39	A		附属長岡小	
19	新潟・万代小	47	都留文科大40	A	理セン専任所員		
20	新津・第三小	47	新潟大教育41	A		附属新潟小	
21	五泉・横田小	47	〃　39	A	新潟市中体連事務局長		
22	三島・寺泊中	47	〃　39			附属長岡中	
23	柏崎・鯨波小	48	〃　38	A			
24	北蒲・中条小	48	〃　39	A		附属新潟小	
25	南蒲・中之島中	48	〃　38	A			県委員長・西蒲書記長
26	新潟・東新潟中	48	〃　38	A			
27	東蒲・上条小	49	〃　38	A			
28	岩船・粟島浦小	49	〃　35修	A		附属長岡小	
29	新潟・鳥屋野中	49	〃　38	A	県中学校教育研究会事務局員		
30	南蒲・信条小	50	〃　37	A			
31	三島・山の脇小	50	〃　35修	A			
32	北魚・広神東小	50	〃　37	A			
33	岩船・長津小	50	〃　34修	A			岩船支部委員長
34	佐渡・高千小	50	〃　35修	A	佐渡ＡＶ主事		
35	十日町・南中	50	〃　36	A			長岡支部委員長・県貸対部長
36	五泉・川東中	50	福島大学芸37	A			県書記長・岩船書記長
37	長岡・山谷沢小	51	新潟大教育36	A			
38	〃・十日町小	51	〃　35	A			
39	北蒲・鉄岡小	51	〃　36	F			
40	長岡・岡南中	51	〃　37	A			
41	新潟・舟栄中	51	福島大学芸35	C			
42	中魚・川西中	51	新潟大教育33修	A			
43	新潟・礎小	52	〃　33修	A			
44	〃・南万代小	52	〃　35	A			
45	白根・大通小	52	〃　32修	A			
46	燕・小中川小	52	〃　34	A			
47	東蒲・三川小	52	〃　35	A			
48	新潟・小針中	52	〃　34	A			
49	中蒲・亀田中	52	〃　34	A			
50	南蒲・横岡小	53	〃　31修	A			
51	〃・上通小	53	〃　31修	A			
52	新潟・上所小	53	〃　33修	A			
53	〃・大淵小	53	〃　33	A			
54	西蒲・和納小	53	〃　31修	A			
55	〃・大野小	53	〃　35	A			
56	佐渡・新穂中	53	〃　31修	A			
57	中魚・白倉小	54	〃　34	A			三南支部副委員長
58	北蒲・保田小	54	〃　31修	A			
59	南魚・土樽小	55	〃　32	A			
60	豊栄・岡方第一小	55	〃　30修	A			
61	十日町・水沢中	55	國學院大文33	B			
62	北蒲・寺社小	56	新潟大教育32修	A			
63	新潟・潟川中	56	〃　32	A			

第７表　「新陽会」、「検友会」、「女教員会」新任教頭の年令等一覧（1989年）

新陽会（17名）

	赴任校	年令	出身大学・卒業年	前任校	経　歴　等
1	中蒲・愛宕中	43	中央大43	C	
2	新津・新関中	44	東洋大文43	B	
3	新潟・関屋中	44	東京農大42	C	派閥研修幹事
4	中魚・上郷中	44	新潟短大40	C	
5	両津・北中	45	千葉商大41	A	
6	豊栄・岡方中	45	都留文科大42	C	
7	新津・第三中	45	宮城県短大39	C	
8	新潟・曽野木中	46	法政大社40	A	派閥研修幹事
9	両津・水澤中	47	東洋大社40	C	
10	岩船・安角小	49	茨城大37	C	派閥研修副幹事長
11	中頸・町立妙高中	49	大東文化大48	C	
12	岩船・留中	50	日本体育大36	E	
13	新潟・下山中	51	新潟大農36	C	閥内研究誌編集委員
14	南蒲・下田中	51	国学院大36	C	
15	村上・岩船中	53	新潟短大31	A	派閥地区幹事
16	西頸・名立中	55	新潟大農32	B	派閥研修幹事
17	十日町・赤倉小	56	法政大文31	C	

検友会（14名）　（　）内は、その派閥にも二重に加入していることを示す。

	赴 任 校	年令	出身大学・卒業年	前任校	経　歴　等
1	南魚・藪神小	45	新潟短大39	B	文部省中央研修・海外研修
2	東頸・小黒小	46	日大文理40・玉川大44	A	文部省社教主事講習　（ときわ会）
3	西蒲・松野尾小	46	玉川大45	A	県教組岩船支部委員長　（ときわ会）
4	南蒲・大浦小	48	玉川大通信43		県視聴覚ライブ社教主事（ときわ会）
5	糸魚川・上早川小	50	信州大教育36	F	（ときわ会）
6	刈羽・石黒小	50	日本大通信38	D	海外研修
7	豊栄・笹山小	50	法政大41	A	
8	東蒲・鹿瀬小	52	都留文科大39	A	（ときわ会）
9	古志・種苧原小	53	玉川大通信42	A	
10	小千谷・塩谷小	53	〃	A	
11	西頸・歌外波小	53	新潟短大32・日大通信35	B	県教組柏刈支部副委員長（公孫会）
12	佐渡・小村小	54	玉川大33	A	派閥支部理事
13	南蒲・早水小	56	〃　32	D	（ときわ会）
14	岩船・寒川小	56	神奈川大31	B	

女教員会（２名）

	赴　任　校	年令	出身大学・卒業年	前任校	経　歴　等
1	中魚・倉俣小	43	新潟女子短大41	B	（公孫会）
2	柏崎・別俣小	44	新潟大教育42	A	

名についてその経験をみると一、附属学校教員経験者十二名、二、主事等経験者十一名、三、組合役員（「派閥」御用組合派）経験者三名であって、そのいずれにも該当しない者はわずか三名にすぎない。とくに附属学校経験者はその四一%を占め、「ときわ会」における教頭への最短コースとなっている。しかも附属学校は新潟大学教育学部の附属校でありながら人事は「派閥」が好きなように行っており（本連載第三回、第十回参照）、そのほとんどが「ときわ会員」であってかつ新潟大学教育学部出身者の「指定席」となっている。また主事等経験者には指導主事や社会教育主事のほか、県小教研や中教研の事務局員が含まれている。小教研や中教研の役員は校長会と全く同一の構成であり、校長会関係の雑務をすることが「出世」コースとなっている。以上のことは「ときわ会」の「閥内選考」にあたってはより「学歴偏重」、「肩書偏重」の形式主義がまかり通っていることを示している。

さて組合役員経験者には元県教組委員長（一九八四年～八五年）（四八才）と県教組書記長（一九八五年～八六年）（五十才）の「最高幹部」が含まれている。その意味するところは「公孫会」と同様であるが、これらの「最高幹部」の中には「自分は頭が禿げているのだけがとりえ。」などと自嘲している者もいる。組合役員選出にあたっては「派閥」の年度会や支部に候補者の「供出」の指示が出され、また各「派閥」は連合して「同志会」という名の選挙対策謀略組織をつくり、新潟県教育界の真の民主化を訴える候補者の進出を阻止している。資料一に示したものは今年（一九八九年）の組合役員選挙における西蒲原郡・燕市の「同志会」の文書である。各学校ごとに「同志会」代表が置かれ、また右上欄にみられるように「女教員会」、「青嵐会」、「検友会」（「剣友」は誤り）、「新陽会」「公孫会」、「ときわ会」（「常盤」は誤り）の各「派閥」が連合して「同志会」企画委員会を構成している。まさに「派閥」ぐるみ選挙であり、法律違反の不当労働行為である。一兵卒として狩り出されている女性教員こそ全く迷惑であろう。

「脅しと締め上げの公孫会」、「形式とボンクラのときわ会」―「派閥」社会のいきつく先―

今春の教頭昇任の「閥内選考」の裏には「ときわ会」と「公孫会」の「体質」のちがいがみえかくれしている。それは端的にいえば「脅し」と「しめ上げ」の「公孫会」、「形式」と「ボンクラ」の「ときわ会」ということができよう。ある特定の集団が排他的な利権を手にしたとき、それが排外的であるが故にその利権をめぐる「あらそい」は「閥内競争」となることは当然の帰結である。「公孫会」はその利権をちらつかせて「能力主義的閥内競争」をあお

資料１　1989年の組合役員選挙における西蒲原郡燕市地域の
「派閥」連合謀略組織「同志会」の役員体制
（原文書では各学校の分会長欄に氏名の記載がある。）

同志会組織（89年度役員選挙体制）																							
郡	班	分会名		分会長	前組合分会代表	班代表	郡代表	幹事	女教員会	百合・創友	新聞	公務	教研
燕郡 11	燕班 11	燕東小		54	細島雅一	若林雄三	八子昭一	関会長 庄司	鈴木初江	藤原清手	相馬俊恵	名取 悟	谷口武彦
		燕西小			深沢宜佐子				深沢宜佐子				若林雄三
		燕南小	☆	34	金								
		燕北小		27	名取 悟				高山美恵子			寺田伸二	
		小池小		27	佐藤 結								
		大関小		32									
		小中川小		52	加藤[illegible]				藤井智子				八子昭一
		松長小		28	山田 [illegible]								
		燕中		50	田中英雄								
		小池中		49	山田七郎								
		燕北中		34	渡辺 [illegible]			副会長 [illegible]					
巻郡 19	巻班 7	巻南小	☆	24	☆高下栄次	本間正巳	本間正巳	金沢一英	鈴木初乃	高下栄次	前武川隆		
		松野尾小		51	佐藤芳弘			会長 [illegible] 光吉	小林ヒサ	中島吉雄	鈴木 [illegible]		
		巻南小		39	本間正巳			副会長 [illegible] 葬					
		巻北小	☆	27	☆中川								
		巻東中	☆	31	☆若狭								
		巻西中	☆	53	☆藤島								
	弥東班 4	弥東南小	☆	56	☆中島吉雄	渡辺敬三							
		弥東東小	☆	26	☆								
		弥東西小	☆	17	☆坂上								
		弥東中	☆	19	☆渡辺								
	岩室班 4	岩室小		33	岩室吉雄	中野 [illegible]			大川 [illegible]				
		岩室小		43	須佐[illegible]								
		間瀬小		31	小林光久						石川勇二		
		岩室中		33	佐藤[illegible]								
	西川班 4	粟生津小	☆	56	☆[illegible]	山本 功			田中[illegible]				
		西川小	☆	50	☆山本							吉岡信行	
		月潟小			川村千恵								
		西川中	☆	[illegible]	☆[illegible]								
西郡 13	弥彦班 3	弥彦小		29	[illegible]	佐藤貞雄			斎藤[illegible]	小島一則	藤盛[illegible]	高橋[illegible]	
		弥彦中			岩見 [illegible]								
		弥彦[illegible]			青野[illegible]								
	分水班 4	分水北小			高橋チヨ	杉山 正			大竹[illegible]				
		分水小	☆	35	☆杉山 正				西藤[illegible]				杉山 正
		島上小	☆	27	☆中川							上野裕文	
		分水中	☆		☆林								
	吉田班 6	東[illegible]小		50	小島一則	榎本 博			宮野[illegible]				
		吉田小		54					太田[illegible]				
		吉田南小		31								斉木健二	榎本 博
		吉田北小		32					森島[illegible]				
		吉田中		37	藤沢[illegible]		藤沢[illegible]						神保[illegible]
		吉田[illegible]	☆		☆[illegible]								
大野郡 14	黒埼班 7	黒埼小	☆	31	☆	桜原 孝	前野十平				前野十平		
		木場小		28	金子[illegible]								
		山田小		41	刈谷[illegible]				関川トシ				
		大野小	☆	28	☆[illegible]				渡辺[illegible]				
		坂井小	☆	27	☆大倉								
		立仏小	☆	25	☆佐藤								
		黒埼中	☆	48	☆[illegible]								
	味方班 2	味方小		30	本間 [illegible]	本間 元			高橋[illegible]				
		味方中	☆	24	☆本間 元								
	月潟班 2	月潟・小	☆		☆中川[illegible]				渡 [illegible]				
		月潟中	☆	52	☆								
	中ノ口班 3	中ノ口東小	☆	60	☆[illegible]	[illegible]							[illegible]
		中ノ口西小		26	[illegible]								
		中ノ口中	☆	27	☆入野								
1		組織図						幹事 [illegible]					

り、「ときわ会」はその利権を継続するためだけの無内容な「形式主義的閥内競争」をあおっている。

しかしいずれにせよ公教育の場におけるこのような「派閥」の不当な支配は、いかに「派閥」がいいつくろおうとも社会的には「公認」されえないものであって、しょせん「派閥」は日蔭の存在であり、たとえそれが顕在化しなくても、日常的にその「存在」そのものが社会的におびやかされている。

かって新潟日報は十回にわたって「揺れる学閥－新大教育学部と上越教育大」（一九八〇年）を連載し、最近でも朝日新聞は連載「学ぶ教える－いま新潟で」の中で「県内の教育界に『教育団体』として存在する」二つの大きな「学閥」を「のしかかる二大学閥」として紹介した（一九八八年一月二七日付）。

さて新潟日報の連載ではその最終回の第十回目に「ときわ会」と「公孫会」に「弁明」の場を与えた。そこでは、馬場吉衛「ときわ会」副会長は「実力を知る便法」と詭弁を弄し、久保田順三「公孫会」前会長は「情実人事は排撃」と強弁した。さらに久保田前会長は「私的（学閥）な事情で人事という公的な行政をどうこうするのは慎むべきことで、もしそんな校長がいたとしたら資格はない。」とまで言っている（新潟日報一九八〇年八月十四日）。「公孫会」の意見にしたがえば、現在の校長のすべてがその資格がないことになり、また今回の新任教頭もまた本来慎まなければならない方法で教頭になったことになる。

「派閥」問題は新潟県教育界の後進性のあらわれにほかならず、同時に新潟県の教員の良心（常識）が問われている。それはいくら詭弁や強弁でとりつくろってみても事実は動かしがたいのである。「派閥」は「重圧」として教育現場にのしかかり、また教員の心を屈折させいてる。県民は「派閥」なんかいらないのであり、教員の多くも心の中では「『派閥』なんかなくなってしまえ。」と思っている。子どもたちのしあわせと教員の本当の生きがいのために、そして教育界が明るさと活気をとりもどすために、「派閥」の公教育支配が一日も早く終焉を告げることが切望される。

（つづく）

〔訂正〕本連載第十二回第2図（八二頁）の検友会小学校教頭指定席のうち潟東南小を潟東東小に訂正します。